

平成18年12月 6日 「食品に関するリスクコミュニケーション(農業に関する意見交換会)」(中国四国農政局) アンケート集計表

出席人数: 155 有効回答: 117 回答率: 75%

問1 あなたはどのような立場で参加しましたか。

	1 消費者団体	2 食品関連事業者(団体を含む)	3 生産者(団体を含む)	4 主婦	5 学生	6 無職	7 地方自治体職員	8 国家公務員	9 その他	* 未記入
問1	12	15	9	7	8	1	31	17	16	1

問2 本日の意見交換会の開催を、どのような方法で知りましたか。

	1 農林水産省のHP(報道発表資料)、配布物	2 中国四国農政局のHP、配布物	3 農政事務所のHP、配布物	4 その他の行政機関のHP、配布物	5 メールマガジン	6 新聞、雑誌等	7 所属団体からの連絡	8 その他	* 未記入
問2	7	36	2	7	4	8	43	9	1

問3 これまでに、下記の残留農薬対策またはポジティブリスト制度をテーマとした過去のリスクコミュニケーション等に参加されたことはありますか。

	1 残留農薬等のポジティブリスト制度の導入についての意見交換会(厚労省・農水省)	2 農薬のリスクアナリシスに関する意見交換会(農水省)	3 厚労省又は農水省のリスクコミュニケーション以外の説明会	4 地方自治体が開催した意見交換会等	5 その他	6 参加したことはない	* 未記入
問3	33	5	9	8	7	54	1

問4 本日の「食品に関するリスクコミュニケーション」に参加された目的はなんですか。

	1 農業に関して理解を深めるため	2 ポジティブリスト制度へ対応した取り組みを知るため	3 農業に関しての意見を表明するため	4 立場の違う方々の意見を知るため	5 その他	* 未記入
問4	60	36	0	18	1	2

問5 前半に行った説明についておたずねします。

問5 - 1 説明者の説明内容はわかりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問5 - 1	15	57	15	16	4	10

問5 - 2 説明内容について理解できましたか。

	1 理解できた	2 おおむね理解できた	3 どちらでもない	4 あまり理解できなかった	5 理解できなかった	* 未記入
問5 - 2	18	67	8	13	1	10

問5 - 3 (の質問で4または5と回答した方)
十分に理解することが出来なかった理由は次のどれですか。(当てはまるものすべて)

	1 スライド資料がわかりにくい	2 専門用語が多い	3 説明が早すぎる	4 よく聞えない	5 その他	* 未記入
問5 - 3	4	5	9	0	5	102
	ただの説明はおもしろくない！山本先生の話がわかりやすかった					
	説明はもう少し分かり易くして欲しいです。山本先生の話が分かり易く良かったです					
	抽象的表現、例え話が分かり難い。					
	時間が短い					
	省の人の説明は分かり難い、大学の先生はわかりやすかった					
	自分自身の基礎知識の欠如					
	もっと言葉をわかりやすく					
	説明者同士で内容の調節が行われていない					

問6 後半に行ったパネルディスカッション及び意見交換についておたずねします。

問6 - 1 司会者の進行は適切でしたか。

	1 適切だった	2 おおむね適切だった	3 どちらでもない	4 あまり適切ではなかった	5 適切ではなかった	* 未記入
問6 - 1	36	54	11	3	0	13
適切ではない理由	司会者が理解できなかったことは聴衆も理解できてないと思われる。再説明を促すことがあってもよかったのではないかと。言い放しになっている					
	コーディネーターは行政関係者でなく、他の者がよいのでは					
	正確に答えてない部分があった 回答不十分な時は他のパネラーが回答すべき					
	消費者の立場と言うより生産者及び官庁寄りになったのではと思います					

問6 - 2 発言者の声はよく聞こえましたか。

	1 聞こえた	2 おおむね聞こえた	3 あまり聞こえなかった	4 聞こえなかった	* 未記入	
問6 - 2	75	30	0	0	12	

問6 - 3 様々な立場の方がお互いに広く意見交換できていましたか。

	1 できていた	2 ややできていた	3 どちらでもない	4 あまりできていなかった	5 できていなかった	* 未記入
問6 - 3	11	53	23	17	1	12

問6 - 4 意見交換の時間は十分でしたか。

	1 長かった	2 やや長かった	3 ちょうど良かった	4 やや短かった	5 短かった	* 未記入
問6 - 4	2	8	55	27	7	18

問7 意見交換会の内容について満足できましたか。

	1 できた	2 おむねできた	3 どちらでもない	4 あまりできなかった	5 できなかった	* 未記入
問7	8	51	21	21	2	14
満足できなかった理由	行政の話はわかりにくい					
	主目的について解決策のつながる話がなかった					
	求めていた答えが得られなかった					
	明確回答でない					
	説明不十分					
	質問に対する答えで理解できないものがあり、回答するパネリストはリスク学に関する本を読んでコミュニケーションの勉強をしてほしい					
	回答が抽象的					
	質問に対する明確な回答がわかりづらかった					
	パネラー同士のやりとりをもっとすべき。回答のポイントはもっと簡潔にわかりやすく(一般向けになっていない)					
	会場からの最後の発言者のおかげでもやもやがすっきり。					
	農薬の毒性についての説明が不十分 安全性への強調が多かった					
	具体的なものが少ない					

問8 意見交換会を開催したことを評価しますか。

	1 評価する	2 おおむね評価する	3 どちらでもない	4 あまり評価しない	5 評価しない	* 未記入
問8	46	46	10	2	0	13

問9 日頃からご関心の高いものについて、3つまでご回答ください。

	1 残留農薬	2 食品添加物	3 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質等)	4 環境からの汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ダイオキシン類等)	5 天然毒素(カビ毒等)	6 加工中に生成する汚染物質(アクリルアミド等)	7 家畜の病気(BSE、鳥インフルエンザ等)	8 有害微生物(病原性大腸菌、サルモネラ菌等)	9 遺伝子組換え農産物	10 食品表示	11 トレーサビリティ	12 その他	* 未記入
問9	59	43	17	29	13	5	27	15	31	46	23	2	10

問10 本日の「食品に関するリスクコミュニケーション(農業に関する意見交換会)」の感想、その他運営などで、何かお気づきの点や感じたことがございましたらご記入ください。

問10

	とても参考になりました。
	質問に対しての回答が不適当であった感がある。
	最後に意見があったようにもとりわけやすくなる努力が必要でしょう。また圧倒的多数を占める消費者側に「なんとなく不安」が残っている限り、ポジティブリスト導入の意義が伝わり切らないのではないかと、消費者にどんどんアピールすることが大切では。
	意見交換会での質問・回答により、本日の講座内容の理解が深まった事があり、良かった。
	駐車場があればなおよかった。 回答がはっきりしていなく、曖昧である。
	国産食品違反はどこでチェックしているのかが理解できました。
	パネルディスカッションに関して解答の分かり難い表現が多い。
	食品というカテゴリで加工品について議論されていない。農業という範囲ではないが、食品製造現場(工場)では多様な殺虫剤等が使用されている。用法・用量は決まっているが農業と比較して非常にあいまいである。食品のリスクとして大きいものではないか。
	メモ机があり、演台の距離も短くすばらしい会場でした。大学生の質問に対する登録基準軽視の答弁はスリリングであった。残農薬の意見もうかがいたかった。シジミ問題について地元の鳥大山本先生の話もうかがいたかった。
	生産者の努力についてもっと発言してもらえば具体的に分かり易かったと思う。 農業は「悪」じゃないPR不足
	消費者の立場から農業に対して興味はあるが消費者が安全なのか安心なのかは表示で確認するしかないので、今後表示に誤りがないのが厳しくしてほしい。店頭販売やJAはしっかりしていても、JAに加入してないことは大丈夫なの？
	生産者サイドにはわかりやすい説明が多いと思いますが、生産者側に対してコープの代表者の意見レベルの低さからみても、もっとかみ砕いた具体的な話方をしてあげないと溝が埋まらないとおもいます。
	農業者(生産者)は散布基準を守り、消費者は人間の体重に対していかに微量であるかを知って、未来の人類の為に両者が協力していくようにしてください。マスコミに載るのが残留農薬等々とあまりにも一方的に画像・紙上で騒ぎ立てるように思います。「不安をかき立てている感があります」 カネミ油脂事件のようになるのは困りますが行政面から国民にきっちりとした姿勢でもって説明しておれば消費者の側も理解できるはずですが、専門的で私には難しかったが、勉強をしなければと思った。
	意見交換 専門分野が異なると生産者、消費者、立場が異なると一寸理解出来ない事がある 分野を細分化した質疑にしてほしい。
	パワーポイントの説明は分かり易かったが、昼からでもあるし眠くなる欠点があり聞き逃した事も多かったです。消費者の立場から言うと、低農薬で望めば少々虫がついていても買う人がいれば市場もそうなるのではないかなと思う。まがった胡瓜等でも、安全であればそれの方がいいと思う。消費者も生産者も共に喜べるような食品であればと思う。
	一般消費者にもっと分かり易い情報を各機関に期待します。
	JAの方が来られれば良かったのでは。
	とても勉強になりましたがやや内容が専門的すぎた印象も受けました。一般の方に理解を求めるならもう少しかみ砕いた内容が望まれるかもしれない
	厚生労働省の説明が早口過ぎると思いました。ポジティブリストについて国民にCMなどで分かり易く周知する必要があると思います。
	農業に関する意見交換会、大変おもしろかったです 前より農業毒性の意味は理解できた。このような講演が毎年あればよいとおもう
	このようなリスクコミュニケーションをもっと地方でもおこなってください。
	作物の種類による残留基準値の設定差の質問について適切な解答がない。説明が不十分である。 質問に対する回答にズレがあり求めていた内容がない。
	いろいろ参考になりました。今後ともこのような会を設定していただきたいと存じます。
	生産者団体の代表としてJAも加えてはどうかと思う
	生産者への指導の件をもう少し詳しく知れたかった。それが適性であれば不安は解消されるのでは…。

	パネルディスカッションでもっといろんな人が発言すればよかったと思う。
	前半の説明がやや時間不足 もう少し落ち着いて説明を聞きたかった。
	消費者に対して分かり易くしたほうが良い。(自分は行政で、行政には分かり易いが…)
	○厚生労働省は喋って帰るだけだ ○山本先生のように信念をもって欲しい。先生についていきたい ○加工業の方の質問に答えていないと思う。大手流通業が加工業に対して検査を(暗黙のうちに)強いている。流通業界にもいたずらに農業はダメとあおらないよう、検査を強いることのないよう釘をさしてほしい。 考え直すべきはやはり生産段階か
	質問に対しての回答が明確でない部分があり結論がどうなのか分かり難い部分が多かった
	○意見や質問の受付をリスコム申込時にやっていただければもう少し多く集まると考えます。○今までに起こった事例(農業事故や違反)等に対する対応状況の話が聞きたい。○農業の残留等、人間に影響するか否かを最終段階で簡単に検査確認できる手法はないか知らせてほしい。○最終的に農産物売る小売店に並ぶときには消費者が何を選んでも問題ないようなスタイルにするのがベスト ○人体への影響等を見るADIの基準についての過度の締め付けは、生産者サイドに過大な負担となることから国際基準等レベルでの、基準でよいのでは
	情報提供は半数の人数でもよいのではないか。(30分×2人)とにかく使う言葉はわかりやすく。勉強していればわかるが全く知識のない人は難しいと思われる。
	情報提供の時間は四人で一時間は短い。(・説明のペースが速い・山本先生の話がもう少し聞きたかった)
	前半の説明はもう少し時間をとっていただいた方が説明される方もゆっくり説明できてよかったのでは。 後半の意見交換会では意見交換の時間をもう少しとっても良かったと思う。又は意見交換のみでも良かったのでは。
	情報提供に関する説明が通り一遍(得に行政側)のものとなりやすいので、専門家からの情報提供に時間をかけてほしかった。得に島大の副学長の時にそれを感じた。
	時間の都合上仕方ないが、講義もっと詳しく聞きたかった。
	最後の参加者との意見交換について、短時間のやりとりはなかなか納得いく答えも得れないと思われるので、ホームページを作って(作ってあると思われませんが)また意見等について答えを後日見てもらうようにした方が意見を出した人も納得がいくとおもいます。まず会議の中ですべてを終わらせるのではなくてそういうこれからのコミュニケーションも大切であるとおもう
	前半の基調講演そのものにもっと施行後の話を入れてほしかった 今後のボジリスの施行方法についても増やしてほしい
	厚生労働省の方があまりにも抽象的な表現でしか説明されないの で 理解しにくかった。ともあれ、消費者が安心して消費できる作物を作る農家の意識を根本的に変えていかないとこの問題は永遠に続くと思いますので行政等がしっかりと指導徹底して頂きたいと思います。
	農水省の担当官の話し方等プレゼンが十分でなかった。
	具体的内容に触れられなかった 例 ○家庭菜園では無農薬栽培は不可能○スーパー販売のキャベツ、白菜など虫食い商品皆無です このギャップの実態をしりたかった。(家庭菜園者 ISO14001)
	「取り扱い者の安全性」でもなく「食品の安全性」でもなく 空中散布により近隣住民への大気中からの暴露評価(調査)を早急に行う必要を感じた。アレルギー患者の急増との関係性はないのだろうか… 又、ADIに安全係数をかけることを初めて知った。 農家の調査は協力農家ではなく抜き打ち調査でないかと本当のところがわからないのではないかと。
	農薬を使用すれば100%防除できるという前提で議論がなされているような気がした。病虫害の抵抗性により効果は必ずしも100%ではないという事実を知識として知らせたほうが良いと思う。
	意見交換ではなく情報の周知になってしまったような気がします。
	消費者も意識改革が必要であると思う。
	食糧の国内自給率を高める為の意見は全く無かった。使用されている農薬が安全である事を周知徹底させる為の説明だったと思います。ファーストフードは農薬が使われた表示がありません。冷凍食品の安全性等説明がありません。癌による死亡者は日を重ねる毎に増加しているが農薬の毒性について種類、使用量等の説明もありませんでした。食品の安全性を確保する為、残留基準、登録残留基準使用基準など設けられている事は理解できるが必要な検査管理が疎か(輸入食品の8%水際検査)では安全安心とはならないと思います。
	生産、消費に至るプロセスに従事する者は、この様なレベルの知見は必要であり、今回は有意義なものでした。制度が先行して、現場が理解できていないと思われます。大規模農業は本当に行政指導が手厚いと考えられますが、現実には不信があります。理由は具体的に何ができているかです。農業に限定しても、計量設備、保管、記録、科学知識、生物知識最小限必要です。いつまでも外部からの評価を得ないと思われます。農業は重要で、前向きな取組を推進しようとする人(見識、実務、先見性の人)を何らかの方策で活用される事を期待します。

(事務局から) アンケートにご協力いただきありがとうございました。 今回いただいたご意見は、担当者に伝えとともに、今後の意見交換会の運営に役立てて参りたいと思います。 (問い合わせ先) 農林水産省中国四国農政局消費・安全部消費生活課 担当：前川、永瀬 TEL.086-224-9428(内線2312、2319) / FAX.086-224-4530
--